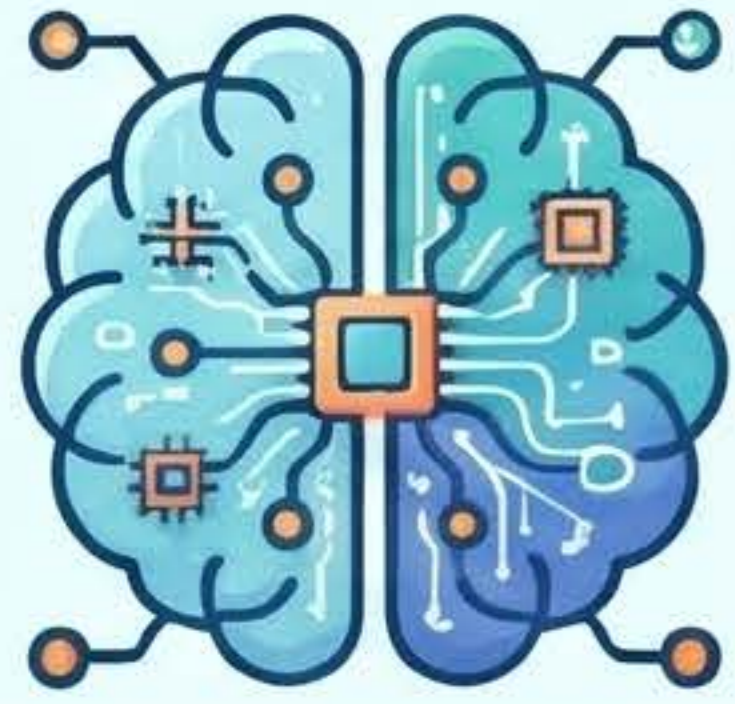


# DeepSeek-V4：知財実務における圧倒的コスパと活用の最適解

## DeepSeek-V4-Proの基本スペックと特徴



### V4-Pro：1.6Tパラメータの巨大MoEモデル

1.6兆の総パラメータを持ちつつ、推論時には49Bのみを活性化させることで、高い知性と効率的なレスポンスを両立しています。



### 100万トークンの超長文コンテキスト

膨大な先行技術文献、審査経過、複数の契約書を一度に読み込み、矛盾や曇分を抽出する知財実務に適した設計です。



### MITライセンスによる自由な展開

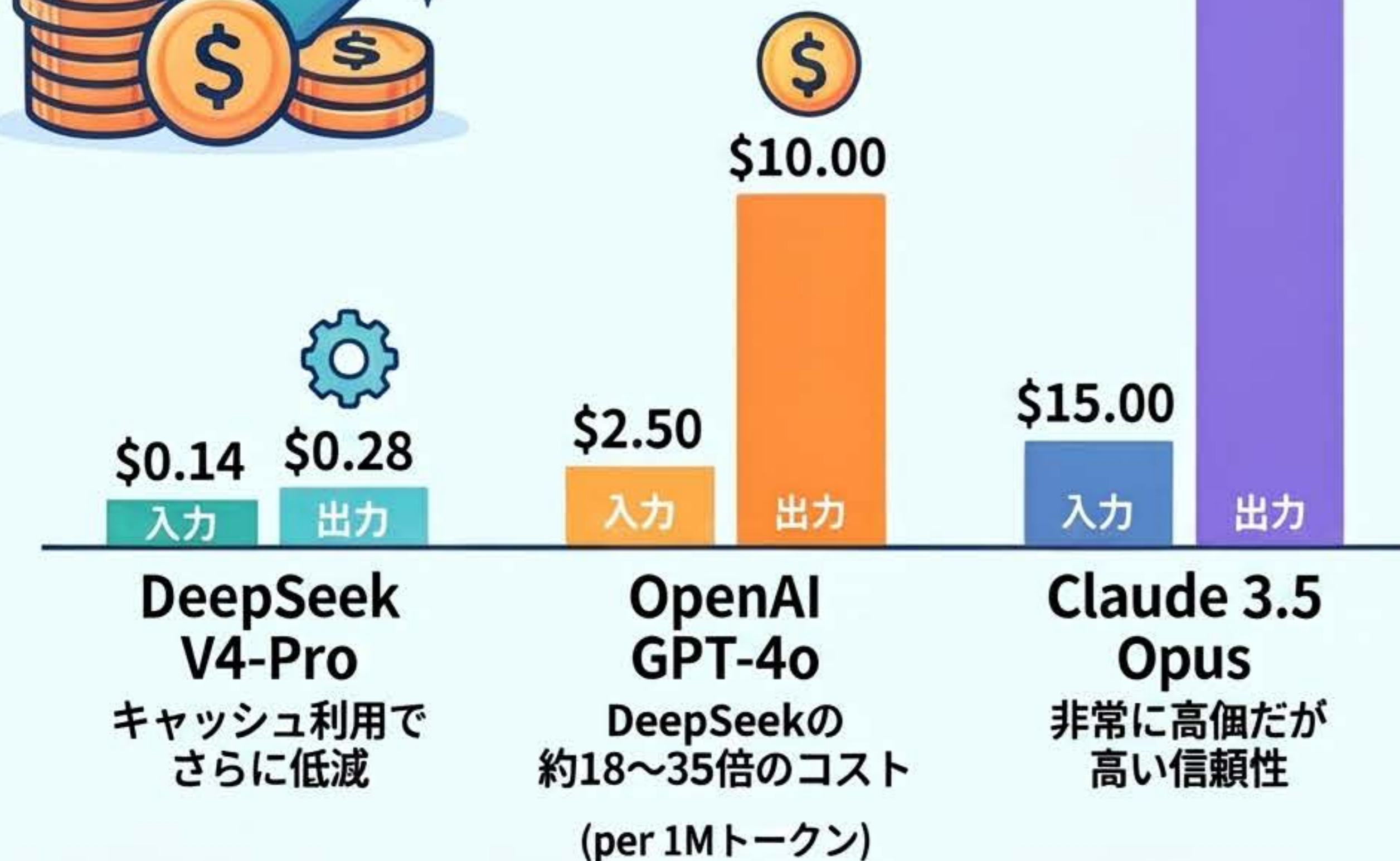
API利用だけでなく、ウェイトが公開されているため自社環境（セルフホスト）での構築が可能。商用利用も認められています。

## 圧倒的なコストパフォーマンス比較



### GPT-4oの1/10以下の価格破壊

入力・出力ともに他社のフラッグシップモデルを大幅に下回る価格設定であり、大量の文書処理を行うバックオフィス業務で圧倒的な経済合理性を持ちます。



### 【特許】先行技術検索とクレームチャート作成

発明要素から検索式を拡張し、抽出されたトップN文獻を要約。構成要件ごとの比較表（下書き）を高連生成します。



### 【商標】クリアランス検索と商品役務案作成

称呼・綴金の振れを生成し、投定商品役務の文書を審査実務に沿って下書き。類似群コードの候補整理を自動化します。



### 【契約・横断】証拠年表とリスク条項の抽出

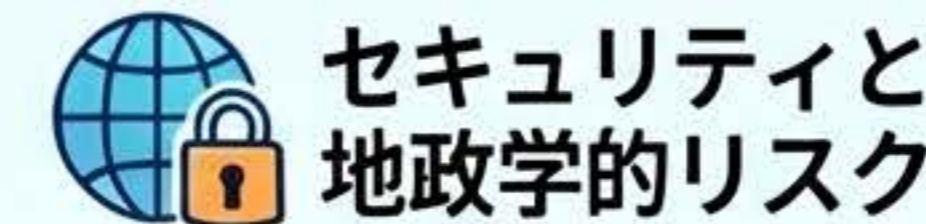
大量のメールや議事録を時系列で整理し、秘密情報保持やIP権属に関するリスク条項を迅速にスクリーニングします。

## 導入時の重要リスクと対策



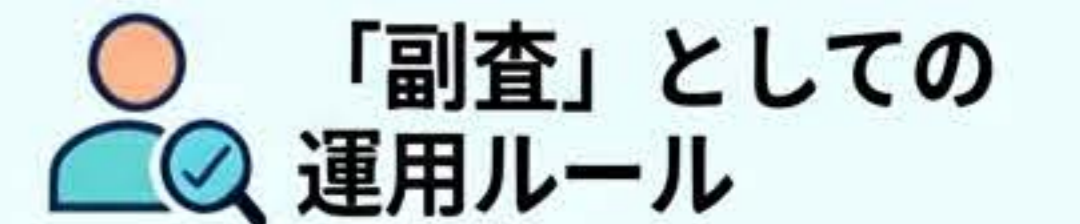
### 専門判断における「ハルシネーション」

実在しない判例や条文の取り通えのリスクがあるため、最終判断や流的意見の自動化には不向きです。



### セキュリティと地政学的リスク

公式SaaSではデータが中国で処理されるため、出願審判明などの機密情報はセルフホスト環境での利用が強く推奨されます。



### 「副査」としての運用ルール

引用元の存在確認（実在率100%）を必須とし、最終出力は必ず人間（弁理士・弁護士）が査読するワークフローを構築してください。